

ウミアイサ

Mergus serrator Linnaeus
カモ目・カモ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内全域で記録があるが、飛来数が大変少なく、存続基盤が脆弱である。

種の特徴

全長 55 cm、頭部は緑黒色で、後頭に 2 段に分かれたぼさぼさした冠羽がある。赤い嘴は細長く、先端はカギ状に曲がる。虹彩は赤い。雌の頭部は茶色で、ほかは灰褐色をしている。沿岸の岩礁地等で、潜水して魚類を捕食する。

分布

冬鳥として全国に渡来し、主に波の静かな内湾でみられる。本県では飛来数が少なく目立たないが、県内全域の沿岸部での記録があるため、毎年飛来していると推察される。

生息を脅かす要因

海洋環境の悪化による餌場環境の消失や船舶から流れる油汚染の影響等が挙げられる。比較的警戒心が強いカモ類であるため、人間の存在による休息や採餌行動への影響も考えられる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県（2002）、高野（2007）、桐原（2000）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○		○	○	○	○			○						○

チュウサギ

Egretta intermedia (Gmelin)
ペリカン目・サギ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧（NT）

選定理由

湿地や湿田を好むため、生息環境の劣化が進んでいる。また、かつてサギ類の集団営巣地は、河川敷内のヤナギ林にあったが、現在は、糞による樹木の枯死、悪臭、騒音等の人間との軋轢が生じる林に形成されることが多く、集団繁殖地での営巣数も決して多くないため、存続基盤が脆弱である。

種の特徴

全長 68.5 cm の中形の白鷺である。同じ白鷺のコサギに比べ、体が大きく首と足は長いが嘴は短い。またダイサギと比べると、体が小さく、首、足、嘴が短い。平地の水田、浅い水辺、水辺近くの草地で、魚類、両生類、甲殻類、昆虫類、クモ類等を捕食する。

分布

夏鳥として九州～本州で繁殖し、西南日本では一部が越冬する。本県では、社叢林、山林、島嶼等で、ほかのサギ類と集団で営巣するが、嶺南地方は少ない。

生息を脅かす要因

現在ある集団繁殖地は、人間との軋轢により林の伐採や追い払いが行われ、営巣環境が安定していない。河川敷のヤナギ林で営巣しなくなったのは、洪水対策による樹林の伐採やアライグマの分布拡大による捕食等が、原因として推察される。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、日本野鳥の会福井県支部サギ類調査グループ（2010）、中村・中村（1995）、高野（2015）、大西・真木（2000）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○		○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○

クロサギ

Egretta sacra (Gmelin)
ペリカン目・サギ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

海岸の岩礁地帯に生息するため、本県のようなリアス式海岸の発達した海岸は生息に適していると推察されるが、岩礁地であっても生息が確認されない等、県内の海岸の岩礁地帯に均等に分布しているわけではなく、存続基盤が脆弱である。

分布

本州以南の海岸の岩礁地帯を中心に留鳥として分布する。本県では、越前海岸～若狭湾岸まで広く分布するが、生息密度は低く、繁殖記録も少ない。

生息を脅かす要因

海岸線の道路整備や釣人、油汚染により、安心して営巣し捕食できる環境が失われることが本種の生息を脅かす。営巣地は、大きな岩の隙間やオーバーハングした岩棚で確認されたため、このような環境が残る海岸の岩礁地帯は、現在の環境を維持する必要がある。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、大西ら（2014）、高野（2015）、中村・中村（1995）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○	○	○	○			○						○